

読解力向上を目指して②

～リーディングスキルの視点を入れた授業改善～

175号では、塙小学校の実践例を紹介してきました。本号では、同じく研究校として実践を重ねた塙中学校と笹原小学校の数多くの実践例からそれぞれ2つの授業について掲載します。

【塙中学校の実践から】

塙中学校では、リーディングスキルテストの結果分析から、子どもたちに不足している「イメージ同定」（文章と図表などを正しく対応させる力）を中心に授業改善に取り組んできました。「イメージ同定」の力がつかないと教科書はもちろん新聞や説明書等様々な文章を正しく理解することができないと言われています。そのため、授業の中で文章（語句）と絵や図、写真など（資料）を結び付ける場面を設定し、文章を正しく理解することに努めました。

3 学年国語科「いにしへの心を受け継ぐ『君待つと』の実践【イメージ同定】

本時の目標：和歌のショートストーリーを読み合い、和歌の内容や情景を理解することができる。

同じ作品を選んだ者同士でグループを組み、和歌の解釈の相違点について叙述を根拠にして話し合う。

（「道の辺に清水流るる柳かげしばしとてこそ立ちどまりつれ」を選んだグループの交流の様子）

T：グループの中で解釈が違っているところはない？

C1：季節が春と夏にわかれています。

T：どの言葉や表現から春や夏と考えたの？

自分の考えをもつ際に言葉（文章）を根拠にさせる問い返し

C1：「柳」は春の季語だから春だよ。柳と小川の流れにみとれていたんじゃないかな。（作者の位置 A）

C2：でも「柳かげ」「立ちどまりつれ」から日差しをよけるために作者は「柳の下」にいたんだと思う。だから夏だと思う。（作者の位置 B）

C1：え？どういうこと？

C2：（右図を描いて）「柳かげ」にいて涼しいから長い時間を過ごしたってこと。

非言語情報（図）と言葉を結び付け（イメージ同定）、言葉や表現を正確に捉えるための活動

内容の解釈のずれが生じた際に自分の考えの根拠となる言葉（文章）を絵で描くことで、和歌の内容や情景を理解することができました。言葉を根拠にすること、生徒同士の対話による読みの吟味は国語科において大切にしたい過程です。

1 学年音楽科「夏の思い出」の実践【イメージ同定】

本時の目標：尾瀬の植物や風景を写真で見ることで、音楽がどのように作られているか、歌詞の内容と関わらせて理解することができる。

「夏の思い出」の舞台である「尾瀬」の風景や植物を写真で提示し、曲を聴いてなぜそのように歌っているか話し合う。

T：「夏の思い出」を聴いて、どんな感じがした？（※漠然とした「尾瀬」のイメージの捉え）

C：ゆっくりで落ち着いている感じ。 C：尾瀬の落ち着いた感じにぴったり。 C：言葉を大切にしている。

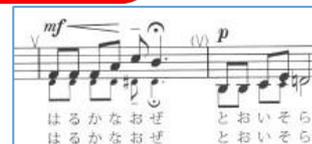
T：楽譜（テキスト）の歌詞や記号と写真を見て、なぜそう歌うのか考えてみよう。

C：（右下の楽譜と写真を見て）「はるかなおげ」は、一面に広がっている「水芭蕉」の花がどこまでも続いている様子を表すのにフェルマータを使っているのかな。

C：確かに。「はるかなおげ」と程よく伸ばすことで、山や空など尾瀬の自然が遠くにある感じが表せるのかも。

写真とテキスト（歌詞や記号等）を結び付け（イメージ同定）、曲想を理解するための発問

歌詞に登場する具体物を見た経験がない生徒にとって写真を提示し、テキストと結びつけることで曲想を理解するのに有効な手立てがとられた授業でした。



【笹原小学校の実践から】

算数科では「(図や式やグラフ, 言葉等) **意味がわかって使える**」ことが大切です。しかし, 「公式にあてはめて速く正確に答えを導く」指導に偏ってしまったり急いでしまったりすると, 生きて働く知識にはなりにくく, 何より児童生徒が, 「それって便利だね」「おもしろいね」「他の場面でも使えるかな」等の「学びに向かう力」の育ちにつながりません。

笹原小学校では, 「**RS の視点を生かした指導の工夫**」と題し, 全学年において算数科の授業研究に取り組んできました。その中で, 目指してきたことは「**わかる喜び**」です。そのために, 「**①児童生徒にとって意味が捉えにくかったり判断に迷ったりするのは何か**」, 「**②使えるようになるための工夫**」を視点に校内研修を積み重ねていました。

実践の一端を紹介します。

5 学年算数科「単位量あたりの大きさ」の実践

どちらに揃えているのか, 求めた結果からどう判断するのか子どもたちがよく迷うところですね。

本時の目標: 混んでいる状況を理解し, 面積も匹数も異なる混み具合の比べ方を考え, 説明することができる。

(AとBの判断が終わったあと, Cの混み具合を考える)

T: ちなみに これは $(5 \div 8 \cdots 1 \text{匹あたりの面積})$ どうなった? (考える対象を明らかに, 注視させる)

C: Aは0.66。Cは0.625 (黒板を見ながら答えた)。

T: どちらが混んでいる? (まず結果からの判断を尋ねる)

C: A! (どの子も自信をもって)

T: 理由は? (あわてず, その判断の根拠を尋ねる)

「式」「図」「表」と「混み具合の判断」が一致しているかどうか (イメージ同定) を確かめることを意図した発問。

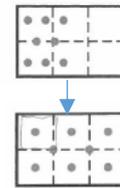
C: 0.66と0.625を比べると (Aの方が) 大きいから (Aが) 混んでいるよ。

C: そうそう! (大勢) C: 違う違う。Cが混んでいるよ…。 C: なんでー?

C: だって…, 1匹あたり (の面積) が大きいってことは… (小さい方が混んでいることの説明)

C: あー! なんかそれ言いたかった! …

T-C-C-C…と子ども同士の対話を引き出したこと, 納得や共感が生まれたことが素晴らしいですね! 式や図の意味がわかって判断できました。そして今度はどの子も自分の言葉で説明できるようにする指導へ移れます!



	面積	匹数
A	6	9
B	6	8
C	5	8

6 学年算数科「データの調べ方を考えよう」の実践

本時の目標: 「10年前」と「今」では, どちらの6年生がよく読書をしているか事象を数理的にとらえ, 論理的に考察し, 問題を解決することができる。



定義と具体例が合致しているかどうか (具体例同定) を確かめるために, 話し合う時間を確保した (単元内に繰り返す)。

「(分析に使用した)用語」と「資料」とを結びつける (イメージ同定) ことを促す発問。

(「単元構成の工夫」と「家庭学習と授業とのリンク」により, 統計的問題解決サイクルを繰り返している。本時においても家庭学習にて分析に取り組んできている)

T: よし! じゃあ今日も早速話し合っていきますか。 ~ (中略) ~

C: ぼくは, 最大値と最小値の差を見ました。10年前は~ (中略) ~9の差があって, 開きすぎているから10年前です。 C: 納得~!

C: 同じく最小値で見ました。最低でも4冊読んでいるから~。

C: ~さんと同じ最小値で見ている, 10年前4冊, 今年は1冊。だから10年前!

C: ぼくは最頻値で見たのですが。

T: 待って。最頻値って言うんだけど, (資料でいうと) どのことだと思う?

上記の5年生同様, T-C-C-C…と子ども同士の対話を引き出したことが素晴らしいですね! また, 分析結果を話し合う経験を重ねたことで, どの子も自信をもって, かつ意味がわかって用語 (様々な分析場面で) を使い, 分析をすることができていました。

次号では, 来年度に向けて「気軽に取り組めるリーディングスキル・シリーズ」を掲載予定です。